2013年1月21日（月曜日）の東京新聞に弊社社長の記事が紹介されました。

東京新聞

2013年（平成25年）1月21日（月曜日）　栃木　地域の情報　26

至言 提言

とちぎの現場から

パン・アキモト社長 秋元 義彦

情報と心の時代

変化読み取る力磨く

新政権のスタートとして新年を迎え、あちこちで新しい動きがみられます。

弊社のような小さな企業は、世の中の変化に大きく左右されることがあり、かじ取りを間違えるとあっという間に「沈没の危険！」にさらされます。

かつて世界に羽ばたいた日本の大手家電メーカーは新興国に押され、今や存続の危機に直面しています。それらの企業も技術革新や市場調査など、たゆまない努力をし企業の屋台骨を支えています。

企業の屋台骨を支えているのはまさしく「人」であり、社員の意識や技術、そしてサービス力を含んだ人間性の高さが企業力として評価され、この変化の時代を切り開くパワーとなると信じてきていると思いますが、それ以上に変化のスピードが速いのでしょうか？

それだけが理由だったら、弊社のような零細企業は生き延びるすべはありません。

時代が、モノ中心から「情報や心」に変わってきているのではないでしょうか。

一つ目の情報変化はソーシャル・メディア・ネットワークの発達で、個人が受ける情報量が現在、十年前の四百四十倍に膨れ上がっているとのことです。電話・ファクスの時代からインターネット・双方向情報共有の時代への突入です。ありとあらゆるところで情報の洪水状態ですが…。

そしてもう一つは3・11を契機に、優しさや絆といったキーワードで代表される心への変化ではないでしょうか。

弊社は東北の被災地支援を継続することで、参加する社員の人間力が非常に高くなったと感じています。気配りや配慮が、製品開発や接客に反映できてきました。

次へのチャレンジは「社員があちこちへ研修に出かけて技術力を磨きながら」変化情報を読み取り、その中で大切なものを取捨選択できる力をアップさせていきます。

今年はリスクを恐れずに果敢にチャレンジする「変革第一弾のスタート」としていきます。